

NUTANIX™

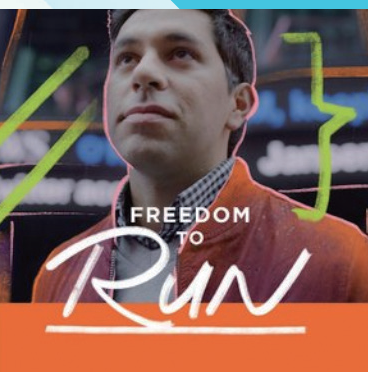
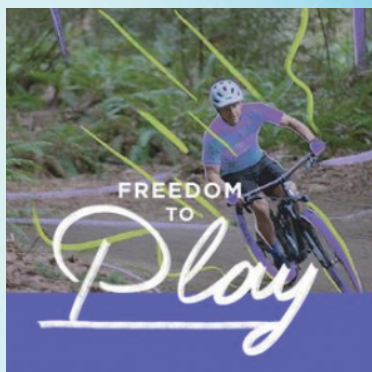
Enterprise Cloud OSの挑戦

7/19
受付開始!

.NEXT on Tour in Tokyo
&
X Tour 開催!

9/21 (金) 東京 10/19 (金) 大阪
11/22 (木) 名古屋 11/30 (金) 福岡

<https://nutanix-event.jp/bcn>



マルチクラウド時代のベストHCIは ニュータニックスの「Enterprise Cloud OS」で

純然たるソフトウェア企業として、ライセンス販売に注力

ハイパーコンバージドインフラストラクチャ (HCI) というジャンルを世界で初めて作り出したニュータニックス。国内ではアプライアンス中心のビジネスを展開してきたが、今後はソフトウェアライセンスの販売にも力を入れていく。その最初のステップとして今年2月、国内主要パートナーとサブ・ライセンス権許諾契約を結んだ。さらに、共同検証の場となるソフトウェアテクノロジーセンターを東京・大手町に開設。パートナーを支援する基盤の整備を進めている。



HCIという分野を創始

「ニュータニックスは純然たるソフトウェアの会社。特定のプラットフォーム、プロセッサ、ハイパーバイザー、クラウドに依存しないニュートラルなHCIの先を行く『Enterprise Cloud OS』を提供している」

ニュータニックス・ジャパンの町田栄作・コーポレートマネージングディレクター兼社長は、このように強調する。HCI とは、コンピューティング、サーバー仮想化、ストレージ、ネットワーク、管理の5機能を備えた垂直統合型基盤またはアプライアンスのことを指す。このジャンルを世界で初めて作り出したのが、2009 年に米シリコンバレーで創業したニュータニックスなのである。

現在のニュータニックスは、世界145か国に9690社以上（18年4月現在）の顧客を有するまでに成長した。米ガートナーが18年2月に発表したレポート「マジック・クアドラント」では、

HCI 分野でビジョンの完全性と実行能力の両方で最も高いリーダーの位置づけと評価されている。^{*} 国内のユーザー数もすでに550社を超えており、町田社長は「自治体を含め、さまざまな業種・規模の企業・団体のお客様にお使いいただいている」と胸を張る。

3階層システムと比較した場合のHCIの強みは、総保有コスト (TCO) が低く、投資対効果 (ROI) が高いことにある。コンピュータ能力やストレージ容量をいつでも自由自在に拡張できるため、数年先を見越した過大投資をしなくても済むからだ。

また、パブリッククラウドの利用料金には、運用管理のコストが含まれるので割高になりがちであるのに対し、簡素化された運用管理を社内で行うHCIでは、費用をぎりぎりまで圧縮することが可能。「一般には全体の75〜80%といわれる“予測可能なワークロード”をHCIで処理し、残り20〜25%の“予測しにくいワークロード”をパブリッククラウドに回すのがいいだろう」と町田社長は

説明する。

複数クラウドを統合的に管理

ニュータニックスのHCIは、HCIとしての全ての機能をソフトウェアによって実現している点に特徴がある。アーキテクチャとしては、ベースとなる物理インフラストラクチャ（サーバーやIaaS）に限定はない。その上で、マルチハイパーバイザー、分散ストレージファブリック、自動化とオーケストレーションの3種類の基本機能を稼働させる構成だ（図1）。

このマルチハイパーバイザーとは、複数の方式に対応できるハイパーバイザー（サーバー仮想化ソフトウェア）のこと。ニュータニックスでは、自社の「Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV)」のほか、「VMware ESXi」「Microsoft Hyper-V」「Citrix XenServer」の各ハイパーバイザーを同時に稼働させることができる。

また、分散ストレージファブリックは、拡張性

が高いソフトウェア定義ストレージ (SDS) を実現するためのソフトウェア。「一般ファイル用のファイルシステムとしてだけでなく、データベースのブロックアクセスにも使える」（町田社長）ので、使用するアプリケーションを選ばない。

このような構成になっているニュータニックスのHCIは、オンプレミスのサーバーやプライベートクラウドとして活用できる。「パブリッククラウド並みの拡張自在なシステム環境を社内に設置できる」（町田社長）ことが、ユーザーにとって最大のメリットだ。

さらに一歩進んで、最近ではニュータニックスのHCIを他のサーバーやクラウドと連携させることで、ハイブリッドクラウドやマルチクラウドを構築する企業・団体が増えている。ただ、この段階に到達すると情報システムとしての複雑さが増した結果として、ITコストがかえって膨張してしまうこともある。サーバーとクラウド、クラウドとクラウド間のデータの移動はそれだけ難しくなるし、運用管理にも高度で複雑な方法が求められるようになるからだ。

そこで同社が打ち出したのが、「Enterprise Cloud OS」というコンセプトである（図2）。「Enterprise Cloud OSは、企業・団体が利用する情報システムの全体を支える単一の基盤として、全てのクラウドを一つのOSとして、1クリックで管理できる」と町田社長。例えば、パブリッククラウド、プライベートクラウド、リモートオフィス／支店・営業所向けの分散クラウドを統合的かつスケラブルに管理できるようになるのである。

このコンセプトを端的に表しているのが、「選択

図3 .NEXT Conference 2018で追加・増強されたNutanixのソフトウェア機能

登場	Software as a Service 初のSaaS型サービス	ガバナンス			Nutanix Beam
		オペレーション	オートメーション	マーケットプレース	マルチクラウドのコスト最適化とコンプライアンス
拡張	Platform as a Service PaaS型サービスの拡張	データベースサービス			Nutanix Era
		オーケストレーション		コンテナサービス	データベースをシンプルに
完結	Infrastructure Service インフラストラクチャ機能完全提供	ネットワークング			Nutanix Flow
		仮想化	コンピュート	ストレージ	1クリックでネットワークのセキュリティを提供

マルチクラウドのコスト最適化とコンプライアンスを担当するガバナンス管理ツール「Nutanix Beam」が登場。データベース管理サービス「Nutanix Era」やネットワーク管理ツール「Nutanix Flow」にも機能拡張が施された。

の自由 (freedom of choice)」というキーワード。「お客様に選択肢を提供することが、ベンダーニュートラルを標榜する当社の務めだ。特定のインフラに依存することがないように、あらゆるワークロード、クラウド、プラットフォーム、ハイパーバイザー、プロセッサへの対応を目指している」と町田社長は説明する。

例えば、プロセッサでは、Intel の「x86」に加えて、IBMの「Power チップ」にもネイティブで対応。パブリッククラウドについては「Amazon Web Services (AWS)」「Microsoft Azure」「Google Cloud Platform (GCP)」をサポートしている。また、ハイパーバイザーは前述した4種類を利用でき、とくにニュータニックスが追加コスト無しで提供している AHV については、「国内全体の Nutanix ユーザーのうち、およそ3分の1がAHVを使っている」（町田社長）。名古屋以西では、AHVの採用率は50%を超えているという。

運用管理を支援するソフトウェア

Enterprise Cloud OS では、マルチクラウド／ハイブリッドクラウドの運用管理を効率化するためのソフトウェアの提供にも力を注いでいる。

その一つが、統合運用管理ツールの「Nutanix Prism」だ。「スマートフォンと同様シンプルで直感的な使い方ができ、経験が浅い人に作業を任せても問題がない」と町田社長は語る。オペレーションを1クリックで実行できるので、運用管理の手間と工数を減らす効果も高い。

また、業務アプリケーションをオンプレミスと複数のクラウドにまたがって配備・運用する際には、アプリケーションライフサイクル管理 (ALM) と呼ばれる運用管理ツールが威力を発揮する。現場の求めに応じてアプリケーションを企業内部で開発したり、外部マーケットプレイスから調達したりして適切な場所（オンプレミス／クラウド）に配備し、使用頻度やデータ量などの状況変化に応じて配備先の場所を変更する――。このような作業をシステム管理者が1クリックで行えるのが、クラウド対応のALM「Nutanix Calm」だ。

ニュータニックスが提供するツールは、今後も、年2回のメジャーアップデートやニュータニックス主催の大規模イベントの際に継続的に追加・増強していく予定だ。例えば、18年5月に米ニューオーリンズで開催されたイベント「.NEXT Conference 2018」では、マルチクラウドのコスト最適化とコンプライアンスを担当するガバナンス管理ツール「Nutanix Beam」が登場。データベース管理サービス「Nutanix Era」や、ネットワーク管理ツール「Nutanix Flow」にも機能拡張が施された（図3）。

機能面では、セキュリティ対策の強化も重要な

テーマとなっている。「AHVは従来、米国防総省が策定したセキュリティ基準をクリアした状態で出荷してきた」と町田社長。Nutanix Flow では、ネットワークレイヤー間のNorth-South通信だけでなく、ネットワークレイヤー内のEast-West通信についても1クリックでセキュリティ設定ができるようになっている。

9社のパートナーと協業

こうした特徴をもつ Enterprise Cloud OS は現在、アプライアンスの「Nutanix NX」シリーズ、OEM 製のアプライアンス (Dell EMC、レノボ、IBM)、ソフトウェアライセンス販売の3形態で提供されている。

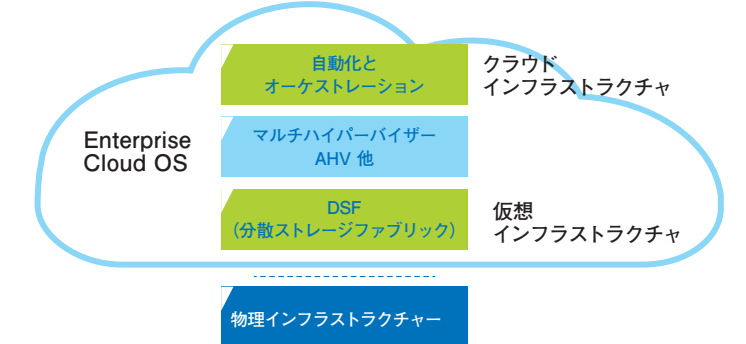
このうち、ニュータニックスが現在力を入れ始めているのは、パートナー企業によるソフトウェアライセンスの販売だ。具体的には、ニュータニックスが公開しているハードウェア互換性リスト (HCL) を参考に、エンドユーザーやSlerがサーバー、ストレージ、ネットワークを自ら調達し、そのハードウェア環境の上で Enterprise Cloud OS を動作させるという使い方である。すでに、シスコシステムズの「Cisco UCS」と、ヒューレット・パカード・エンタープライズの「HP ProLiant DL シリーズ」の2製品については、ニュータニックス自らがハードウェアの互換性を検証済み。その他の製品についても、ベンダーや同社のパートナー企業が検証結果を発表していく見通しだ。

国内で Enterprise Cloud OS のサブ・ライセンス権を取得したのは、伊藤忠テクノソリューションズ、NEC フィールドエンジニアリング、兼松エレクトロニクス、ソフトバンク コマース & サービス、TIS、東京エレクトロニクス、日商エレクトロニクス、ネットワールド、日立システムズの9社（18年2月27日発表）。あわせて互換性検証と確認のための国内向けパートナープログラム「Nutanix Elevate Program」も開始し、共同検証の場となるソフトウェアテクノロジーセンターを東京・大手町のニュータニックス・ジャパン本社内に開設した。

また、Enterprise Cloud OS の普及を目指すマーケティング活動として、AHV Deep Dive セミナーやAHV Bootcamp（ハンズオンセミナー）を開催中。NEXT Conference 2018 で発表された内容についても、9月から開催する同社イベント（東京・大阪・名古屋・福岡）で、そのエッセンスが紹介される予定だ。

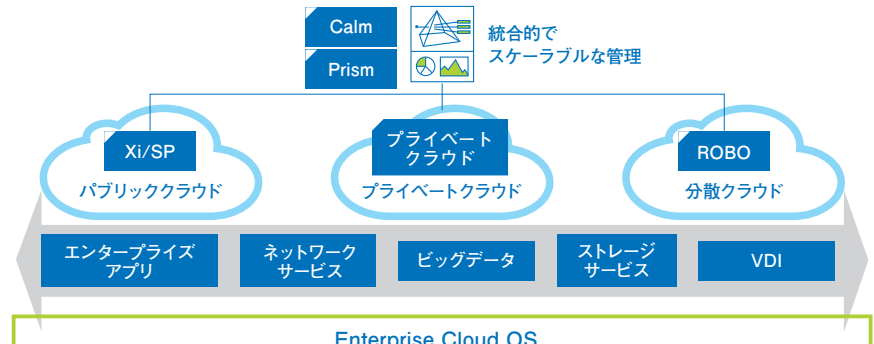
このほか、Nutanixのお試し版として、オンライン版の「Test Drive」（2時間まで）とダウンロード版の「Community Edition」もニュータニックス・ジャパンのウェブサイトで公開されている。製品の導入を考えている企業・団体は、機能や使い勝手を事前に確かめるために活用するとよいだろう。

図1 アプリケーション中心のフルスタックソリューション



分散ストレージファブリック、マルチハイパーバイザー、自動化とオーケストレーションの各ソフトウェアで構成。物理インフラストラクチャにはさまざまなものがある。

図2 Enterprise Cloud OSが目指す姿



パブリッククラウド、プライベートクラウド、分散クラウドなどを連携。その全体を「Nutanix Prism」と「Nutanix Calm」で統合的に運用管理する。

※出典：ガートナー社「Magic Quadrant for Hyperconverged Infrastructure」、John McArthur et al, 2018年2月6日
 ガートナーは、ガートナー・リサーチの発行物に掲載された特定のベンダー、製品またはサービスを推奨するものではありません。また、最高のレーティング又はその他の評価を得たベンダーのみを選択するように助言するものではありません。ガートナー・リサーチの発行物は、ガートナー・リサーチの見解を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーは、明示または黙示を問わず、本リサーチの商品性や特定目的への適合性を含め、一切の保証を行うものではありません。



伊藤忠テクノソリューションズ
http://www.ctc-g.co.jp/

サーバー販売をベースに多様なHCIソリューションで攻める
3社のサーバーで国内販売実績No.1、ASEAN地域でも展開

伊藤忠テクノソリューションズ（CTC）は2015年より、リセラーとしてニュータニックス製品を国内外の企業・団体に販売している。ニュータニックス“純正”のアプライアンスである「Nutanix NX」のほか、OEM製品の「Dell EMC XC」「Lenovo HX」の各シリーズ、さらには、ニュータニックスのハードウェア互換性リストにある「Cisco UCS」や「HPE ProLiant DL」といったハードウェア販売を中心にニュータニックスビジネスを展開してきた。情報通信事業企画室ITビジネス推進第1部クラウドソリューション推進課の瀧 慎一郎氏は、「Cisco、Dell EMC、HPEのどのサーバーについても、当社は17

年度の国内販売実績ナンバーワンだ」と強調する。また、ASEAN地域ではマレーシア、シンガポール、タイ、インドネシアにあるCTCの現地法人を通じて、日系企業などにニュータニックス製品を販売している。日常の運用管理を現地スタッフに任せられる“手離れ”のよさなどが歓迎されているという。

18年度からは、ハードウェアの販売を継続しつつ、「Enterprise Cloud OS」のソフトウェアライセンス販売も増やしていく方針。同課主任の上野浩稔氏は、「アプライアンスが2割、OEM製品が3割、ソフトウェア販売が5割の心積もりだ」と説明。今後はEnterprise Cloud OSに対応するサーバーが増える



情報通信事業企画室
ITビジネス推進第1部
クラウドソリューション推進課
主任
上野浩稔氏



情報通信事業企画室
ITビジネス推進第1部
クラウドソリューション推進課
主任
瀧 慎一郎氏

を構築すれば、低コストでスモールスタートが可能」（瀧氏）。また、「ストレージの速度が速いので、高いレスポンスが得られる」（上野氏）こともポイントだ。

CTCでは、今後のオンプレミスビジネスはHCIを中心に進むと予測し、17年度では1年間をかけて全ての営業担当者とシステムエンジニアに対するHCI教育を社内で行った。「18年度はその次の段階として、Enterprise Cloud OSとサーバーをどのように組み合わせれば顧客のニーズに合ったシステムを提案できるかを教えていく予定」だと上野氏。ビジネスをさらに伸ばすための商材として、Enterprise Cloud OSを活用していく考えだ。

CTC販売戦略

ハードウェアと分離されたソフトウェア「Enterprise Cloud OS」提供

1.豊富なサーバーを中心としたITインフラの販売実績
— Cisco：FY17国内販売実績No.1リセラー
— Dell EMC：FY17国内販売実績No.1リセラー
— HPE：FY17国内販売実績No.1リセラー

2.積極的なASEAN地域への展開
— マレーシア、シンガポール、タイ、インドネシアのグループ会社を通じてハードウェアだけでなく、Enterprise Cloud OSのライセンス販売にも力を注ぐ。



NECフィールドینگ
https://www.fielding.co.jp/

24時間365日のサポートを提供する「Nutanix NX保守サポートサービス」
全国約400か所のサービス拠点からカスタマエンジニアが現場に駆けつけ修理対応

NEC製ハードウェア製品の保守サポートを全国で展開するNECフィールドینگ。全国約400か所のサービス拠点を持ち、24時間365日の駆けつけ修理対応サービスを提供していることが強みだ。

同社は2017年8月に、ニュータニックス認定サポートパートナーとなった。その背景について、「お客様から「Nutanix NX」シリーズに対して、NEC製品と同等レベルの保守サポートサービスを求められていた」と、ソリューション事業部長の泓 宏優氏は説明する。

「Nutanix NX保守サポートサービス」の枠組みは、NEC製品向けの場合と基本的に同じだ。ユーザーが同社のコンタクトセンターに電話やメールで連絡

すると、Nutanixサポートスペシャリストが常駐しているNECフィールドینگのコンタクトセンターが迅速に切り分けを行い、カスタマエンジニアが現場へ駆けつけ、現象を確認して修理を行う。ニュータニックスのエンジニアと連携するエスカレーションパスも用意している。

このサービスを利用できるのは、NECフィールドینگからNutanix NXシリーズを購入したユーザーに限られる。「当社はSierとして、ニュータニックス製品を含むマルチベンダー構成のHCIソリューションをお客様に提案している」と、ソリューション事業部ICTソリューション部主任の世戸大地氏。構成はユーザー側で自由に決められるが、中堅企業向けにはNutanix NXシリーズとアライドテレシスの10GbEスイッチ「XS900MX」シリーズ、NECフィールドینگのUPS、Arcserve Japanのバックアップアプライアンス「Arcserve UDP Appliance」、Nutanix NX保守サポートサービスの組み合わせを推奨しているという。

Nutanix NX保守サポートサービスは、17年10月に提供を開始し、保守サポートサービスの拡張策についてニュータニックスの米国本社と検討を進め



ソリューション事業部長
泓 宏優氏



ソリューション事業部
ICTソリューション部
主任
世戸大地氏

ている。

施策の一つが、長期サポートへの対応だ。「日本の顧客はIT資産を長期間にわたって運用するため、5年から7年の長期サポートを考えている」と泓氏。ほかにも、Nutanix NXシリーズのハードウェア異常を自動通報し、NECフィールドینگの監視センターで検知する仕組みに対応させたり、事業継続性確保のためのクラウドサービスと連携させたりといったサービス連携も検討対象になっているという。また、同社では「Enterprise Cloud OS」のライセンス販売にも力を入れ、よいサービスとともに顧客へ提供できるよう、今後もさまざまな提案を行っていく考えだ。

NECフィールドینگの特長

全国約400のサービス拠点
最寄りのサービス拠点から、エンジニアが駆けつけ対応

全国ロジスティクス網
全国の約200倉庫を活用、在庫はリアルタイム管理

60年以上の実績
高度な技術力で迅速、高度な修理対応を提供

24時間365日対応
さまざまな時間帯の要望にあわせたサービス提供

Nutanix NXシリーズについても60年以上の実績に裏打ちされた安心の保守サポートを提供。「止められないシステム」もしっかり守ることができる。



ソフトバンク コマース&サービス
https://cas.softbank.jp/

APACのニュータニックスディストリビュータとしてNo.1の称号を受賞
一気通貫型のサービスを全国で提供

ソフトバンク コマース&サービス（ソフトバンクC&S）は、ディストリビュータとしてニュータニックス製品をパートナー企業に販売している。ICT事業本部MD本部ICTソリューション販売推進統括部HCI & Storage販売推進部部長の羽尾和弘氏は、「導入に先立つアセスメントから不要機器の回収まで、一気通貫型の支援を数十名のHCI販売支援チームが全国規模で展開している」と胸を張る。

そうした日頃の流通活動が評価され、今年5月にはニュータニックスの年次イベント「.NEXT Conference 2018」で「APAC Distributor of the

Year」を受賞した。また、社内にニュータニックスの製品・技術に精通するエキスパート「Nutanix Technology Champion」（NTC）が2人在籍していることも大きな特徴となっている。

同社が強みとするのは、既存の仮想環境からHCIに移行する際のアセスメントだ。既存仮想環境の稼働状況を自動測定・可視化する「HCI導入アセスメントサービス」を提供。パートナー企業を通じて同サービスを申し込んだ顧客に対し、ソフトバンクC&Sはアセスメントツールを組み込んだPCを発送。このPCをデータセンターやサーバーラーム内のネットワークに接続して1か月ほどモニタリングし、取得したデータをアセスメントツールで分析すると、ITリソース割り当ての過剰や不足が判明するという仕組みだ。

このほか、ソフトバンクC&SではニュータニックスのHCIを核に、バックアップアプライアンスやアンチウイルスなどのセキュリティ製品、UPS、10GbE NWスイッチといったマルチベンダーのソリューション



「APAC Distributor of the Year」を受賞

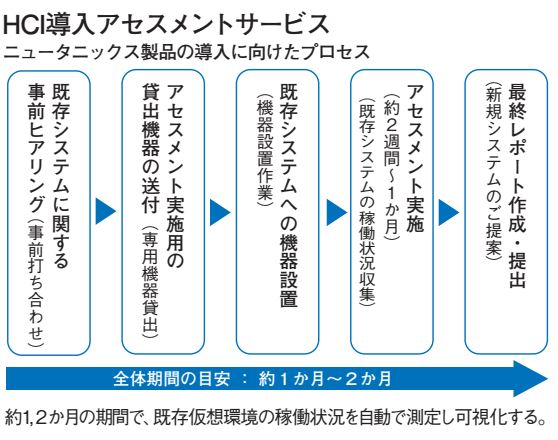
ン提案にも力を入れていく。また、機器リプレースによって不要になったハードウェアを同社が回収して、機器購入代金を値引きする「ICTライフサイクルサービス」もユニークなサービスだ。

さらに、18年度は「Enterprise Cloud OS」のライセンス販売にも注力していく方針。「ニュータニックスが公開しているハードウェア互換性リスト（HCL）に載っているサーバーとEnterprise Cloud OSを組み合わせることで流通に乗せる」と羽尾氏は説明する。ソフトバンクC&Sの検証施設にはHCLに掲載されているサーバー製品が用意されている。それを使って、パートナー企業やエンドユーザーからの検証ニーズに応えていく考えだ。

なお、ソフトバンクC&Sは、今夏開催される「Nutanix .NEXT ON TOUR IN TOKYO」と「Nutanix X TOUR IN OSAKA」「Nutanix X TOUR IN FUKUOKA」でのブース出展を予定している。



ICT事業本部 MD本部
ICTソリューション販売推進
統括部
HCI&Storage販売推進部
部長
羽尾和弘氏





TIS INTEC Group
https://www.tis.co.jp/

Nutanixを基盤とするクラウド「TIS ENTERPRISE ONDEMAND Service」
顧客へのリードタイムを短縮し、より付加価値あるサービス提供に注力

大手SierであるTISは近年、サービス事業にも力を入れている。そのうちのの一つが、顧客企業にクラウドやデータセンターを提供するプラットフォームサービス事業だ。サービス事業統括本部プラットフォームサービス事業部プラットフォームサービス第2部長の市田真也氏は、「われわれは、2012年頃から『Nutanixは特徴的で興味深い製品』とみていた」と振り返る。

注目のポイントは、拡張性が高く、稼働までのリー

ドタイムが短かったこと。また、構成要素が少なく、標準化による生産性向上が可能となるため、同社のクラウドサービスにおける競争力が向上するという期待もあった。

まずは自社の仮想デスクトップ基盤（VDI）用として12年度に社内導入。14年末に顧客のVDI環境向けに初納入した。さらに、翌15年には顧客の統合仮想環境向けに販売。16年には顧客のプライベートクラウド用の基盤としてニュータニックス製品を提供している。

5年以上の社内活用／販売実績をもとに、TISはクラウドサービス「TIS ENTERPRISE ONDEMAND Service」の核となる基盤に、HCIのNutanixを選定した。18年5月に発表したサービスブランドの「Platform Square」でも重要な位置づけとなっている。

TISのクラウドサービスには、「HOSTED PRIVATE Service（HPS）」「SHARED SERVER Service（SSS）」「MANAGED NETWORK Service

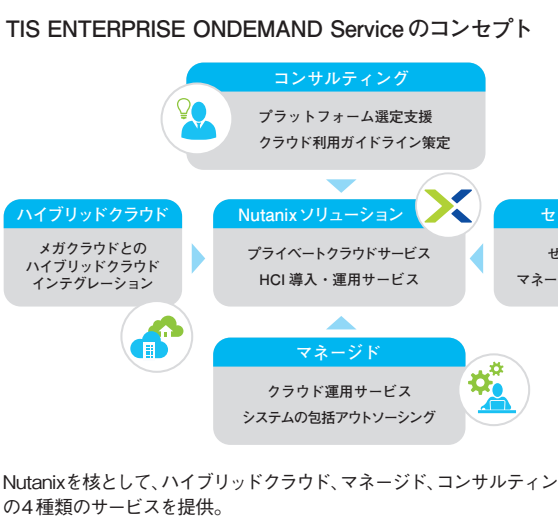
（MNS）」の3種類のサービスがある。このうち、Nutanixが使われているのはHPSとSSSの二つ。HPSは顧客ごとに専用の環境を用意する専有型、SSSは複数の企業が環境を共有する共有型のサービスだ。

「HPSでは、Nutanixを使うことで、お客様の注文を受けてから環境を用意できるまでの日数を大きく短縮できた」と市田氏。SSSの場合もTISの判断で増設を決めてから稼働させるまでの期間を最小限にできるため、資産効率が高まっているという。

「Nutanixには自動デプロイの機能もあり、『Kubernetes』ベースのコンテナ管理機能も開発が進められていると聞いている。業務アプリケーションでは、どちらの機能も今後の主流になることが確実。こうした機能うまく使いながら、お客様の要望に合ったサービスを提供していきたい。併せて、コンサルティングやセキュリティなどのサービスについても強化していく」と市田氏は意気込みを語る。



サービス事業統括本部
プラットフォームサービス事業部
プラットフォームサービス第2部長
市田真也氏





マルチクラウド管理をワンクリックで実現

Enterprise Cloud OS 単体ソフトウェア対応ハードウェア・プラットフォーム

ハードウェア	サポートするモデル	
HPE® ProLiant® サーバー	HPE® Gen10 Servers - DL360 Gen10 8SFF - DL380 Gen10 12LFF - DL380 Gen10 24SFF HPE® Gen9 Servers - DL360 Gen9 8SFF - DL380 Gen9 8SFF - DL380 Gen9 12LFF - DL380 Gen9 24SFF	
Cisco UCS® サーバー	UCS M5 C-Series Rack Servers - Cisco UCS® C220-M5S - Cisco UCS® C240-M5L - Cisco UCS® C240-M5SX Note: The M5 C-Series servers currently support only UCS domain mode.	UCS M4 C-Series Rack Servers - Cisco UCS® C220-M4S - Cisco UCS® C240-M4L - Cisco UCS® C240-M4SX Fabric Interconnects for M4 Series servers - Cisco UCS® 6248UP 48-Port Fabric Interconnect - Cisco UCS® 6296UP 96-Port Fabric Interconnect - Cisco UCS® 6332 32-Port Fabric Interconnect (40 GbE) Note: On the 6332 Fabric Interconnect, fanout cables enable you to connect a 40G port to 10G ports on UCS® M4 servers through 10G VICs.
	UCS B-Series Blade Servers - Cisco UCS® B200-M4	
	UCS B-Series Blade Server Chassis - Cisco UCS® 5108 Blade Server Chassis	
	Fabric Interconnects for M5 Series servers - Cisco UCS® 6332 32-Port Fabric Interconnect (40 GbE)	
Dell EMC PowerEdge サーバー	第14世代Dell EMC PowerEdge - R640 10 SFF - R640 4 LFF - R740xd 12 LFF - R740xd 24 SFF	Dell EMC XC Core - XC640-4, 4i, 10 - XC740xd-12, 24 - XC940-24 - XC6420-6

*Nutanix が Enterprise Cloud OS の動作を保証し、保守サービスを提供する上記の動作保証環境は各社の新しいサーバーモデル販売開始等により適時更新します

Enterprise Cloud OSの様々な機能

SDNソリューション	Flow
PaaS型データベースサービス（データベースの運用を合理化・自動化）	Era
アプリケーションライフサイクル管理とクラウドオーケストレーションツール	Calm
SaaS型ガバナンス管理サービス（マルチクラウドのコスト最適化とコンプライアンス）	Beam
Enterprise Cloud 構築のためのOS	AOS
対応アプライアンス・プラットフォーム	IBM Hyperconverged Systems、Dell EMC XCシリーズ、Nutanix NXシリーズ、Lenovo ThinkAgile HXシリーズ

パートナーお問い合わせ先

伊藤忠テクノソリューションズ

URL

http://www.ctc-g.co.jp/solutions/nutanix/index.html

Email

telbiz-product@ctc-g.co.jp

NECフィールディング

NECフィールディング

URL

https://solution.fielding.co.jp/contact/

TEL

03-3457-7190

ソフトバンクC&S

URL

https://cas.softbank.jp/

Email

SBBMB-Platform-Promo@g.softbank.co.jp

TIS

TIS INTEC Group

URL

https://www.tis.co.jp/

TEL

03-5337-4379

Email

ps-info@ml.tis.co.jp

東京エレクトロンデバイス

東京エレクトロン デバイス

URL

https://cn.teldevice.co.jp/maker/nutanix/?p=about

TEL

03-5908-1973

Email

nutanix-presales@teldevice.co.jp

日商エレクトロニクス

NISSHO ELECTRONICS

Email

nutanix-sales@nissho-ele.co.jp

ネットワークワールド

Networkworld

URL

https://www.networkworld.co.jp/product/nutanix

Email

nutanix-info@networkworld.co.jp

日立システムズ

株式会社 日立システムズ

Nutanix (ニュータニックス) 事務局

Email

nutanix_sales@hitachi-systems.com

各項目は全て50音順(社名は法人格除く)で表記しています